

JAICOH NEWS LETTER

NO:64 2012年1月発行



歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

〒113-8549 東京都湯島 1-5-45 東京医科歯科大学 歯学部口腔保健学科
URL: <http://jaicoh.org/> Email: info@jaicoh.org Tel: 03-5803-4971
郵便振込: 00140 - 9 - 599601 歯科保健医療国際協力協議会
発行: 白田千代子 編集: 中久木康一

2012年となりました。2011年は誰にとっても東日本大震災に振り回された年となったのではないかと思います。東日本大震災後には、高齢者や障がい者といった社会的弱者とも呼ばれる方々への支援や介護についての問題が浮き彫りにされましたが、考えてみれば、もともとが全く余裕のない状態でまわしている分野は、有事にその体制が保てないことはもともとわかりきっていたことでもあるわけです。単に災害後の支援ということではなく、今後の体制づくり、特に、地域における連携を構築して行くことが、今回被災された多くの方々の苦労を無駄にしないということであろうと思われれます。

従前から続けてきている海外への支援活動などの継続、そして、そこに今回の日本での経験をどう生かして行けるか、2012年はまた、チャレンジの年ともなるでしょう。今後も、JAICOHを多くの方々の情報交換の場として、活用いただければ助かります。(中久木康一)

JAICOH 冬の研修会 (ご案内)

下記の通り、JAICOH 冬の研修会を行います。みなさま、ぜひお集まりください。(白田千代子)

テーマ: 「インドネシアの医師・歯科医師が考える国際協力とは！」

講師: Melissa Adiatman (メリッサ アディアットマン) 先生

Endrawan Pratama (エンドラワン プラタマ) 先生

日時: 2月25日、土曜日、14時~16時半くらい

会場: 東京医科歯科大学 1号館西8階 口腔保健学科 第4講義室

会費: 一般2000円、学生1000円

今後、研修会・交流会を開催していただける方は、事務局 info@jaicoh.org までご連絡ください。

各団体の会を JAICOH にオープンにさせていただき、共催・後援という形にしても、個人が企画を持ち込んでの JAICOH 主催という形にしても、よいと思います。いずれにせよ、研修会が増えれば多くの人にとって参加できるチャンスが増えますので、JAICOH としては積極的に開催していきたいと考えています。

JAICOH 春の研修会（ご報告）

日本大学松戸歯学部口腔外科 谷野 弦

平成23年10月8日(土)16:00～18:00に日本大学松戸歯学部MDホールにおいて、JAICOH秋の研修会を開催いたしました。講師として県議会議員・歯科医師である設楽詠美子先生をお呼びし、コーディネーターは当会会長の白田、および理事の谷野が務めました。講演タイトルは「カンボジアでの保健活動と日本での議員活動 ～これから活動をする人のために～」でした。

学生時代からの国際保健活動、現在の議員としての活動、そして母としての取り組みなどを中心に、設楽先生の半生を語っていただき、活発な質疑応答が行われました。参加人数は学生、当会会員を中心に27名で、講演会終了後18時30分頃より松戸駅東口月の宴にて執り行われた懇親会にも、25名ほどの参加をいただきました。

「カンボジアでの保健活動と日本での議員活動」 ～これから活動をする人のために～

設楽 詠美子 先生

母として議員として仕事をしている中で学生に伝えたいことを発表したいと思います。

私が歯科医師になったきっかけは小学校三年生の時に虫歯を発見され、6年生の給食時に満足にものを食べられない貧しい国がある存在を知り歯学部に興味を持ったことがきっかけです。私は国際ボランティア活動の興味を持ち、今まで100本の歯ブラシを持って一人でタイに行ったり、無医村を訪れたりして歯の大切さを伝えてきました。また、歯の大切さを伝えたくて紙芝居を作ったりしました。またカンボジアでは半年間病院に無給で勤めたり、地元の看護師さんたちと連携して間接支援をしたり直接支援をしたりしました。そのカンボジアでの活動の中で私はやがて更により良い活動をもとめて同じ志をもつメンバーを募り、ワークショップを開くようになりました。メンバーで意見を出し合った結果、ポンク部62小学校の小学生を対象に教員とヘルスセンターの職員と連携して学校保健に取り組もうという話になりました。

そんな活動の中、夫が病理学の研究でアメリカの大学で勤めることになりました。当時私は半年間のカンボジア活動から日本に戻り、川崎医科大学の口腔外科に勤務していましたが、悩んだ末に夫とともにアメリカへ渡ることになりました。アメリカの大学ではライティングラボ等で今迄カンボジアでやってきたことを論文に書きました。このような経験から今の学生の皆さんにも外国で勉強することを薦めたいと思います。



カンボジアの話に戻ると、統計データを見てみると大体のデータは日本の子供と変わりませんが、痛みを持っている子供たちが実に68%もいることがわかります。カンボジアで取り組んだ学校保健では『心の環境づくり』や『自分の歯ブラシを持つ』、『病気のコントロールも学校が中心になってやっていこう』等を目標に決めました。歯のチェックリストや心のチェックリスト等を作成し、学校側がチェックできるようにしその結果をもとに校長先生に計画を作成してもらいました。計画の内容としてはお金をかけなくてもできるものを作成してもらい、先生方が積極的に計画をたてた結果、ほとんどの項目を実施することとなりました。

私はアメリカで長女を出産後、夫の突然の事故死で日本に戻ることにになりました。当初アメリカの大学で論文を書き働くことも考えましたが、アメリカでの単身での子育てと仕事の両立に悩み、日本に戻ることに決めました。私が日本に帰ってきてまず思ったのはアメリカと日本の子育ての違いで、日本は主に女性が育児に取り組むのに対しアメリカでは夫婦で育児に取り組むということでした。

カンボジアでの経験、そしてこのアメリカでの出産経験、育児経験から日本に戻った後は茨城県明日の地域づくり委員会委員長、ののほな自然育児の会代表、筑西市男女共働参画の推進員などを務めました。これらの活動を通じて感じたことは、日本はまだまだ県議会議員や研究員、企業における管理職等において女性の社会進出が遅れているということでした。また、母乳育児の分野でも日本はまだまだ遅れているように感じました。母乳育児の有無は子供の顎関節の発達にも影響を及ぼします。統計上日本の現状としては96%の母親が母乳を継続したいと感じていますが、半年間母乳栄養を受けている育児は25%あまりしかいません。これはカンボジアよりも劣った数値です。私はこれらのことから地域の母親達とともに、妊娠時の健康管理や育児等の勉強会も行っています(子供が最も成長するのは母親のお腹の中です)。

私が議員として活動しようとしたきっかけは男女共働参画の活動をしている中で、県議会議員における女性の比率が圧倒的に少ないことを知り、友人から薦められたことがきっかけでした。またこれに加えて女性の声が届かない、地域医療が崩壊している、全国ワースト2位の医師不足、緊急医療がない、など茨城県、筑西市の問題がみえてきたということもありました。私はこの状況に対し使命感を感じ県議会議員になる決意をしました。そして、衆議院議員の秘書の方からいろいろアドバイスを聞いている中で益々決意が固まっていきました。

県議会議員になった後は8020・6426推進事業に取り組んだり、小学校におけるフッ素洗口の普及に取り組んでいます。また、水道局など横の連携をしっかりとした上でのフロリデーションの勉強会をしようとも思っています。

将来の超高齢社会を見据えると、みんなには結婚をして子供を産んでほしいと思っています。新生児の問題に関しては北米や北欧などの国にならって非嫡出子の比率を伸ばすことも重要ではないかとも考えています。またシングルマザーに対する補助にも取り組んでいきたいと思っています。

『命を守る仕事をしたい。』これが私が思っていることです。

歯科医師という職業は開業だけではなく研究への道や海外への道があり、また政治に参加し、県や国に歯科医師としてアドバイスすることができる道もあると私は思っています。

これからもみんなが健康なまま長生きできるようなサポートをしていきたいと思っています。

御清聴ありがとうございました。

質疑応答

Q： 活動資金はどうしてましたか？

カンボジアでは国立医療センターや都道府県から補助をもらって活動していました。今でも助成金がある県があるかもしれません。製薬会社からももらうこともできると思います。

Q： 先生の夢はなんですか？

みんなが安心して日本で暮らせる、みんなが日本に誇りを持つような国づくり、地域づくりをするのが私の夢です。

Q： これまでの活動以外にこれから挑戦したいことは？

今回の研修会もそうですが、新しいつながりを作っていきたいと私は思っています。歯科医師の道として、みんなに開業以外の道があることを広められるような活動をしていきたいです。また私個人としても新たな道を開拓していきたいと思います。

Q： 10年にわたるカンボジアの活動を支えたモチベーションは？

カンボジアに待っている人達がいるというのがモチベーションとなりました。

宮崎秀夫先生（新潟大学）からのコメント

設楽先生は大変情熱がある人で、新潟大学の麻酔科に来た時もそうだし、カンボジアに飛び込んだ時もそうでした。先生が示した道以外にも、WHOの職員、国連の職員など、開業医以外の道も歯科医師には沢山あります。先生が一番素晴らしいのは、物事に取り組む際に『無理そうだ』とか排除をしないこと、排除をしてしまうと人生がつまらなくなります。設楽先生はまだ若いので、県議会議員がゴールとは思わずに頑張してほしいと思います。

白田千代子会長からのコメント

学生のみなさんには、夢を大きく持ってほしいと思っています。設楽先生のような意気込みを持ってほしい、また、設楽先生にはこれからも是非頑張してほしいと思います。



第 26 回日本国際保健医療学会学術大会・総会ユースフォーラム報告

日本国際保健医療学会 学生部会(jaih-s)

運営委員 広報班 谷口健太郎

2011年11月4日～6日に開催された日本国際保健医療学会・総会ユースフォーラムについて報告させていただきます。本学術大会ならびに総会ユースフォーラムは東京大学本郷キャンパスにて開催されました。自分は本学会学生部会 運営委員(jaih-s)として本学会学生部会主催ユースフォーラムに運営として参加して参りましたので報告いたします。

本学会では6日に口腔保健に関する口演発表が白田千代子さん(東京医科歯科大学),野中愛恵先生(九州大学),深井穂博先生(深井保健科学研究所)より行われました。また同日、ポスター発表にて沼口麗子先生(NPO カムカムクメール)より発表がありました。本学会開催期間の土日はデンタルショーが開催されていたにも関わらず、多くのJAICOHの方々とは会場にてお会いすることができました。

jaih-s主催ユースフォーラムには土日二日間間に延べ180名余りの学生が全国より集まりました。jaih-sでは5日に基調講演(「国際保健」多分野からのアプローチ～日本の貢献の今と未来～),分科会(AIDS,学校保健)、6日には東日本大震災特別企画『いま学生ができること、学ぶべきこと』,分科会(技術イノベーション政策,国際保健キャリアラウンド,リプロダクティブヘルス)が行われました。特に基調講演ではNPO法人 宇宙船地球号 山本敏晴先生を講師としてお招きし保健医療分野の人材にとどまらない国際保健医療に携わる人材について講演していただきました。また、東日本大震災特別企画においてはロジスティクスに関して深い議論なされました。こちらのユースフォーラムにおきましてJAICOH-MLにて広報させて頂いた事もあり延べ十名ほどの歯科学生にお越し頂きました。

先の東日本大震災により災害医療・ボランティアに関する興味関心は急激に社会において高まったものと思われます。特に、医療系・非医療系を問わず学生には顕著にその傾向が見られると考えます。しかし10年後、20年後の国内も含めた国際保健医療・災害医療を考えた場合、世界では災害の有無に関わらず厳しい現状が常にあることを忘れてはならないのだと感じられる学会・ユースフォーラムとなったのではないかと考えます。

社会歯科学研究会 秋季研修会 in 宮城 参加報告

東京歯科大学 3年 谷口健太郎

平成23年11月26・27日に宮城県歯科医師会館にて行われました社会歯科学研究会 秋季研修会に参加してまいりましたので報告いたします。

本研修会はメインテーマ「大災害と歯科医師会」(~大災害に向けて整備すべき歯科保健医療の提供体制~/総務情報/医療救護/会員救援/身元確認/)のもと県歯科医師会にスポットをあて行われました。参加者は約80名で被災三県・過去被災した兵庫・新潟県歯科医師会及び行政関係者が主でした(内4名学生)。

進行は主にセッション方式で行われ、4つのセッション(S1 医療救護・仮設診療所, S2 総務情報, S3 会員救援, S4 身元確認)ごとに 宮城県歯からの報告・問題提起 グループディスカッション(問題点の抽出と対応策) グループ発表+全体討論の流れで行われました。この中から、S1 と S4 について報告させていただきます。

S1 の医療救護では主に「大規模災害対応マニュアルについて」「震災時の連絡手段について」「医療救護支援物資の問題」について議論されました。大規模災害時のマニュアルについては震災前に大規模災害対応マニュアルは整備され、県との防災協定、年1回の総合防災訓練などを行っていたものの、実際には本部となる歯科医師会・歯科医師・建物の被害については想定されておらず、震災が起ると救護活動・身元確認・安否確認ができるという想定であったとのことでした。また、県歯科医師会の役員に関しても県全域に居住しており、本部となる県歯科医師会館への移動が困難であることから会議に支障がでたことなどからも、「震災時の連絡手段」についても議論されました。県の歯科医師会館には災害時緊急電話があり、初動の停電時の対外的連絡に有効であったとのことでした。それ以外の通信手段として衛星電話や無線なども検討されました。基地局が正常であればポケット通信が一番使えるのでは?という意見もありました。これらのことから、県歯科医師会のキャパシティーは急性期においては限られており、被災県の県歯科医師会はあくまでコーディネートを主とし、その他の実務に関しては近隣県に協力を依頼すべきという意見がでました。「医療救護物資の問題点」としては歯科救護医療の物資は多岐にわたるため、義歯の修理・新制、歯内療法、外科、歯周治療、充填等の器具・材料を診療毎に取りまとめて準備しなければならないのが被災県にとっては困難であるとのことでした。一方、医療チームには毎日不足している物資を補充しなければならないため、在庫管理の責任者(コーディネーター)が必要であるが、その責任と負担が大きいことについての問題も議論されました。

S4 の身元確認では、「各都道府県歯科医師会における歯科的身元確認体制の構築」「災害直後の急性期における問題点」について主に議論されました。宮城県歯では平成18年より県警、東北大学、海保と合同訓練を計4回行っており80人ほどの宮城県歯会会員が研修したが、今回の震災ではそれを大きく上回る歯科医師が身元確認に動員されており足りなかったとのことでした。そのため、研修経験のある歯科医師と研修経験のない歯科医師を初期には組ませてダブルチェックならびに記録方法を確認していったとのことでした。研修経験のある歯科医師には身分証を発行しており、それにより現場への出入りがスムーズに行われていたそうです。神奈川県歯会では研修に一般会員も受け入れるようにしたとのことでした。今後の課題としては、急性期にどこがイニシアティブをとるか?また、PTSD対策を踏まえた本格的な研修ならびにデータベース化を視野に入れた取り組みが必要になるだろうといった議論が行われました。大学への要請数確保のために本意ではない若手歯科医師が派遣され、PTSDになったことが大きな教訓となったとのことでした。

今回の研修会でもっとも印象深かったのは「災害歯科医療は平時の地域歯科医療の鏡である」(田中彰先生、日本歯科大学新潟生命歯学部)ということでした。応急歯科診療は住民の歯科、口腔保健に関する関心・認識度・在宅歯科診療のノウハウである 巡回口腔ケアは地域における口腔ケアの普及状況(誤嚥性肺炎の予防=口腔ケア有効性に関する介護・医療関係者の認識度)ということでした。

以上をもちまして本研修会の報告といたします。

社会歯科学研究会 HP <http://socialdentistry.web.officelive.com/default.aspx>

～ ～ ベトナム・フエ医科大学滞在記 ～ ～

鶴見大学歯学部 地域歯科保健学教室

フエ医科大学客員研究員

古川 清香

9月から縁あってベトナム、フエ医科大学にきています。フエはベトナム中部に位置し、ベトナム最後の王朝の都がおかれた町です。学生生活や滞在中に私が感じたことを、少しご紹介させていただきたいと思います。

1. ベトナムのフエ医科大学の学生の生活

フエの学生は早起きです。大学の開始時間も7時です。午前中(11時まで)の授業の後には、各自家で昼食と昼寝をし、午後13時半ごろから午後の授業が開始されます。先生によって授業の開始時間が14時だったりもします。終わる時間も先生しだいといった感じです。授業のカリキュラムは大まかには決まっているようですが、次の一週間の予定が前の週の金曜日に貼り出されるようになっており、日本のようにスケジュールがタイトな感じはしません。歯学の専門教育は3年生からはじまり、4年生から診療室での臨床実習が始まります。顎モデル等での実習はなく、最初から患者さんを対象に始まります。初めて局所麻酔を打つ4年生が、手の震えを止められず、患者に拒まれている姿も目撃しました。学生同士での実習もなく、最初から对患者の実習ですので、相当お互いに怖いだろうなあ、と思います。

学生同士は非常に仲がよく、常にクラスのリーダーがクラスをまとめて引っ張っています。できる子は飛びぬけてなんでもできる、という印象です。



写真1 . 大学の通学



写真2 . 臨床実習の様子

2. 学生への講義

学部長からの依頼で、10月下旬から11月にわたり2時間半の講義を5回行いました。4～6年生の希望者(60名程度)が講義に参加してくれました。日本の歯科医院の実態や歯科医療制度、学生生活、歯科疾患の罹患状況、ヘルスプロモーションや健康教育など、私ができる範囲で、英語で

分かりやすい講義を心がけました。最後の講義では、学生にそれぞれのターゲットに向けた健康教育の媒体を作成して、発表してもらうように試みてみました。パワーポイントを使った発表、歯磨き指導、寸劇など、工夫を凝らして発表してくれました。

ベトナムは未処置歯が多い国で、すべての人に歯科治療が行き届いていません。また、富裕層と貧困層に大きな経済格差が生じています。そして大きな健康格差も生じています。現状とこれからのベトナムの未来について、少しでも考えてもらいたいと思いながら講義をしました。学生に自分の国の未来について考えようと提案する一方、私自身も自分の国の未来、“超高齢社会”における歯科医師の在り方について、考える機会をもらいました。



写真 3 . ブラッシング指導



写真 4 . 農村地域に住む人への歯科受診のすすめ
(寸劇)

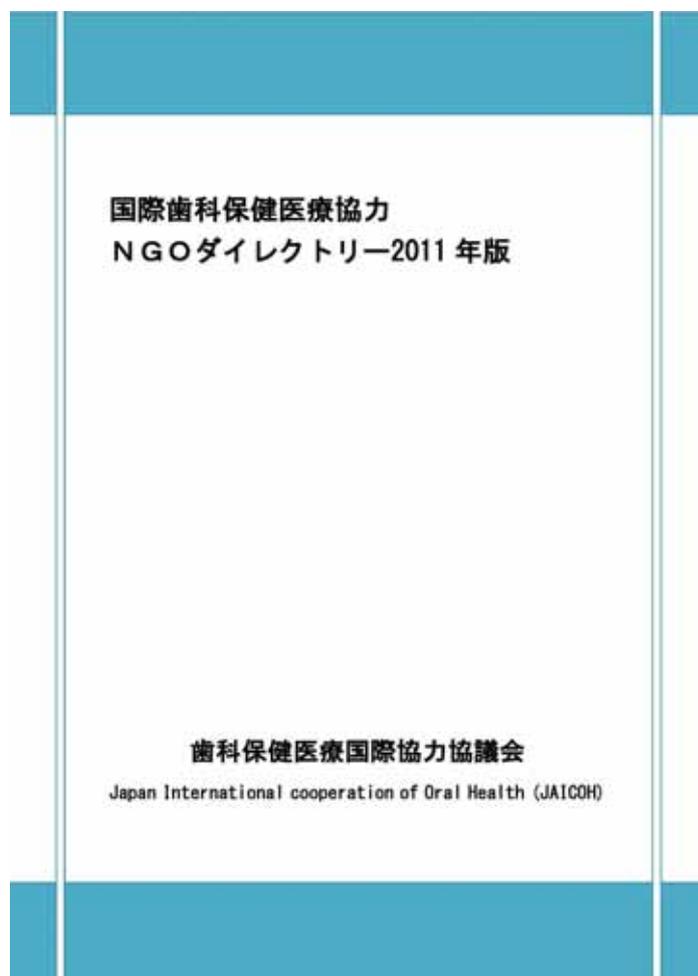
3 . 地域歯科保健の実習

フエ医科大学では、5年生、6年生の2回、歯科医のいない農村地域に学生が無料歯科診療を行います。1週間泊まり込みでの実習です。今回は600人程度の患者さんを診察したそうです。私は最終日のみの参加だったのですが、学生が診療する姿を目にすることができました。実習の写真をみせてもらったところ、小学校での診療の際には健康教育を実践したり、地域の人に分かりやすい絵を作成して壁に掲示したりするなど、少し私の授業も役に立ったことがあったように感じました。無料診療をするにあたり、寄付などを大学で集めているようでしたので、こういった現地で行われている活動の支援を行うというのも、また1つの歯科保健協力活動であると感じました。私も何か継続して支援ができるように思いますし、こういったきっかけからまた新しい国際歯科保健協力活動が始まっていくのだと思います。

身振り手振りと言葉のベトナム語を話しながらの生活を3カ月。日本人は、ベトナムではどこに行っても歓迎され、日本人でよかったなと思う日々です。あと残り3カ月となりましたが、私が助けられている以上に、フエの学生や教員のみなさんの何か助けになれるようにがんばりたいと思っています

事務局より

国際歯科保健医療協力NGOダイレクトリー（2011年版）のお知らせ



「国際歯科保健医療協力 NGO ダイレクトリー」は、2002年発行されて以来更新されておりませんでした。現状に変化が出てきましたので、各団体および関連組織に対しての再調査を行い、改訂版（2011年12月）が完成いたしました。

改訂版には20団体が掲載され、新たにボランティア活動がしたいと考える学生や医療従事者等が各団体の活動内容を理解しやすく、参加しやすいような内容となっています。各団体および関係者の活発な情報交流と連携の推進のための情報源として有効利用いただけると幸いです。

なお、本ダイレクトリーはJAICOHのホームページ <http://jaicoh.org/> よりPDFファイルにてダウンロードできます。

調査にご協力いただきました関係各位に、感謝の意を表します。（古川 清香）

今後のニューズレターで、団体紹介コーナーをつくります！！

ニューズレター編集協力者の坪田真です。普段は仙台市で歯科医院を開業しており、JAICOHとはネパール歯科医療協力会（ADCN）を通して関わってきました。この度ニューズレターの編集に、中久木先生をバックアップするという立場で参加することになりました。よろしくお願ひします。

さて、編集を協力するにあたり中久木先生から依頼されたことに、事務局からのお知らせ以外に情報提供ができることがあればというのがありました。そこで、思いついたのが各参加団体の紹介や活動報告を始めてみようということです。JAICOHにはホームページに明記してあるものだけでも9つの団体があり、中には内外に活動内容を誇れる団体もあります。しかし、学会等で参加団体の活動を知る機会があっても、意外にそのメンバーの顔がわかる報告は少ないように感じていました。このニューズレターを通して、もっとフランクに各団体の横のつながりを広める機会になればと考えています。

今回のニューズレターから早速各参加団体のページを設ける予定ですが、団体のスケジュールによって原稿の書きやすいタイミングがあろうかと思えます。まず、各団体に概略でもいいので年間スケジュールや現地派遣隊の活動時期をお伺いすることになります。その上で各団体には原稿の執筆をご依頼させていただきます。依頼のあった団体には、ご協力のほどよろしくお願ひします。

なお、私のメールアドレスは t.mkt@sepia.ocn.ne.jp です。顔の見える、楽しい紙面を目指してがんばります。(坪田真)

メーリングリスト (JAICOH - ML) に登録・投稿してください!!

メーリングリストの運用をしています。

各団体の活動やスタディーツアーへの募集のお知らせなども、ぜひ投稿ください。(門井謙典)

なお、歯科保健分野における国際保健、地域保健に関心のある方は、誰でも登録できます。登録希望者は、1. 氏名、2. 所属、3. メールアドレスを、jaicoh-admin@umin.ac.jp までメール送信してください。数日以内に手続きします。問合せは、JAICOH 事務局 ML 担当 門井 jaicoh-admin@umin.ac.jp まで。

2011 年度会費納入をお願いします!

ニューズレター・NGO ダイレクトリによる国際歯科保健医療協力に関わる情報提供、シーズプロジェクトなど国際協力活動に関心のある若い人たちへ助成など本会の事業は皆様から納入いただく会費によって運営されています。つきましては、2011 年度の会費納入にご協力賜りますようお願い申し上げます。今年の納入率は昨年よりもまだ下回ったままです!

年会費は、普通会员が 5000 円/年、維持会員が 10000 円/年、学生会員が 2000 円/年です。JAICOH の年度は、7 月から 6 月です。(遠藤圭子)

会費納入先(郵便振替)

口座 00410-9-599601

名称 歯科保健医療国際協力協議会

昨年末には、世界エイズ・結核・マラリア対策基金(世界基金)での助成が、世界経済危機によってドナー国の資金拠出が減って資金不足に陥り、2014年まで新規案件が募集されないという驚くべき決定が下ったというニュースが飛び込んできました。これが撤回されるかどうか、世界で最も脆弱な状況におかれている三大感染症の人々、数百万人の命がかかっていると。

これに対して JAICOH ができることは少ないですが、まずは JAICOH がその役割を果たし、存続していくことが必要でしょう。ようやく念願だった NGO ダイレクトリの改訂も、多くの方々の協力によりできました。今後も更なる運営の効率化が必要であろうと考えていますが、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。(中久木康一)